





1参加者同士が息を合わせて薪運びの作業2大きさが異なる薪を手にして木のぬくもりを実感3児童たちは町森林組合の職員からのこぎりを使った伐採方法を学びました

10/4

林業

第20回－薪･牧･巻－ トリプルまきフェスタ

町産業振興協議会（会長・鈴木重男町長）が主催する第20回・薪・牧・巻・トリプルまきフェスタが10月4日、くずまき高原牧場で開催され、町内小学生など関係者約130人が参加しました。主催者代表の鈴木町長は「都会にはない山村地域の機能を体感するイベントが20回目を迎えた。森の恵みに親しむ企画を存分に楽しんでほしい」とあいさつしました。

森林資源の魅力を体感

土谷川地区の町森林公園内で行われた森林とのふれあい体験では、薪の収穫や伐採などを体験。薪の収穫体験では、子どもから大人までが協力して大きな薪を運び交流を深めました。のこぎりで木を切りそろえる薪作り体験では、作業に苦戦しつつも、町森林組合の職員からアドバイスを受け、手際良く作業を進めていました。



▲自身の身長を超える高さまで薪を積み上げる児童



▲作品のこだわりを審査員にアピール



▲上位入賞チームに賞状と副賞を授与

全日本薪積み選手権大会を開催

第19回全日本薪積み選手権大会が同会場内で開催され、5分間で積んだ薪の高さを競う高さの部に8チーム、薪棚の芸術性などを競うアートの部に5チームが出場しました。緊張感漂う中行われた高さの部では、185㌢の高さまで積みあげたフォレストファイブ（葛巻地区森林愛護少年団）が優勝。東舘金之介（きんのすけ）さん（小屋瀬小5年）は「みんなと協力して1位がとれた」と喜びました。アートの部では、町のシンボルのシラカバやハギを装飾に使用した小岩金網チームが4連覇を果たし、チームメンバーは「チームワークの良さが優勝につながった」と胸を張りました。







1和牛農家が手塩にかけた牛の資質などを厳正に審査2未経産牛の部名誉賞に輝いた外山さんの出品牛3経産牛の部名誉賞に輝いた土谷さんの出品牛

10/18

畜産

第16回 葛巻町和牛共進会

第16回町和牛共進会（同実行委員会主催）が10月18日、くずまき高原牧場チャレンジハウスで開催され、月齢と出産回数で分けられた5部門に23頭が出品されました。

開会行事で鈴木重男町長は「情勢の変化がある畜産業において家畜改良は永遠の課題。改良について学び多き大会としてもらいたい」と出品者を激励しました。

審査員を務めたのは、岩手県内の共進会で審査歴のある全国農業協同組合連合会岩手県本部の藤村有沙さん。家畜改良の成果などを見極め、厳正に審査した結果、未経産牛の部の名誉賞に外山秋翔さん（上外川）、経産牛の部の名誉賞に土谷嘉孝さん（元木）の出品牛がそれぞれ選ばれました。

外山さんは「4年ぶりに未経産牛の部で名誉賞を受賞できたことがうれしい。これからは飼養管理と経営の改善について知識を深めていきたい」と今後の目標を語りました。土谷さんは「状態の良い牛を出品することができた。初めての経産牛の部の名誉賞受賞はとても励みになる」と最高位にある名誉賞の受賞を喜び、笑顔を見せていました。

■各部の金賞１席入賞者（敬称略、★は名誉賞）

種別	部別	出品者
未経産	第１部	東舘 直樹（吉ヶ沢）
	第２部	外山 秋翔（上外川）
	第３部	★ 外山 秋翔
経産	第４部	★ 土谷 嘉孝（元木）
	第５部	上山 秀司（吉ヶ沢）